

Social Workers

社大OB・OGがつむぐ福祉の絆

ソーシャルワーカーズ

2012

10月

Vol.7

地域での生活を支え、
住民参加の福祉を促進する



社会福祉協議会は全国各地にあり、住民が地域でより良い生活を送れるよう、福祉に関する講演会やボランティア活動支援など、様々な福祉サービスを提供しています。社会福祉協議会におけるソーシャルワーカーは地域住民の福祉増進に取り組んでいます。

interview



う きょう あつ ひさ
右京 昌久さん

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会
福祉経営支援部 参事兼部長



くろ さわ え り か
黒沢 江里華さん

社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会
地域福祉係 ボランティアセンター勤務

福祉の道は多方面に広がる

—地域住民の福祉活動を支えるソーシャルワーカー—

社会福祉学部福祉計画学科
2009年3月卒業

くろ さわ え り か
黒沢 江里華さん

社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会
地域福祉係 ボランティアセンター勤務

PROFILE

1988年 埼玉県熊谷市生まれ

2009年 社会福祉学部福祉計画学科卒

同年より相模原市社会福祉協議会 地域福祉係

社会福祉士

社会福祉協議会
の広報紙

学生時代に
影響を受けた本



「制度のすきま」にいる
人たちを支援

社会福祉協議会では、市民の協力を得てボランティア活動や助け合いサービスなど様々な事業を展開しています。黒沢江里華さんは相模原駅に近い「あじさい会館」4階にある相模原市社会福祉協議会のボランティアセンターに勤務しています。

センターには「いるかバンク」というボランティア登録制度があり、ボランティア活動をしたい人と、受けたい人をコーディネートするのが黒沢さんの仕事です。高齢者や福祉施設などから依頼があれば、新しいボランティア派遣先を訪問調査することもあります。

黒沢さんは、「どの福祉制度にも当てはまらない制度のすきまにいる人たちを支援するのがボランティア」といいます。ケアマネージャーを通して介護保険制

度を利用し、数々の福祉サービスを利用することが出来ます。たとえば「朝の短い時間だけでいいから高齢の親の様子を見てきて欲しい」といった「すきま」の要望を受けて、登録ボランティアが活躍します。

地域の コーディネーターとして

相模原市は、地域住民による活動が盛んです。活動に長く関わってきた住民や民生委員の方々から「黒沢さんは孫と同じ年頃だわ」と言われつつ、厚い信頼を受けています。「初心者向けボランティアセミナー」を開催して、ボランティア活動の心構えや車いす介助方法などを伝えるなど、担当地区での各種講座の企画、運営を支援するのも業務のひとつです。

小・中学生向けに「福祉教

黒沢さんの ある日

8:15 出勤

8:30 業務開始

- 30分ほど職員ミーティング(前日の申し送りなど)
- ボランティア窓口(いるかバンク)の受付



- ボランティア希望の来訪者や電話での申し込みに対応
- 翌日のボランティア活動の参加者に日時や内容を電話で確認
- ボランティア参加者に活動内容を確認して問題点などを聞く
- 次回の講演会の講師は誰にするかなど担当地区の活動を企画する

12:00 お昼休み 職場の同僚と昼食

13:00 近隣の小学校に移動、「ボランティア講座」開催

- 小学生と先生・保護者に、実際に車いす体験をしてもらう

17:15 業務終了時間(この日は残業)

19:00 担当地区の定例会議に出席するため公民館へ移動

- 地区担当委員の方と次回の講演会の段取りについて話し合う

21:00 会議終了 帰宅

社会福祉協議会での 地域住民活動に 「これだー!」

育」の出張授業を行うこともあり、車いすを利用する方々も交えて「自立とは何か」について生徒と一緒に考えを深めます。

黒沢さんは、自宅近くの盲学校の文化祭への参加がきっかけで福祉への関心を持ち、福祉を総合的に学べる日本社会事業大学に入学しました。しかし、自分の目指す専門分野が絞り切れずいました。そんな時、社会福祉協議会で住民同士が「困ったときはお互いさまだよね」と生き生きとボランティア活動している姿に出会います。社会福祉協議会の仕事は世代を超えて幅広い分野に関われると気づき、「これだ!」と思いを強くしました。

「職場の雰囲気は温かく、先輩方からは講座企画や地元の方との対応などに的確なアドバイスをいただくなど、とても恵まれていました」と笑顔で話す黒沢さんからは仕事の充実ぶりが伝わってきます。

最後に「福祉は困難を抱える人を支える仕事ですが、道はひとつではなく多方面に広がっています。少しでも『福祉』という言葉に興味があるなら、迷わず飛び込んでほしいと思います」とエールをくれました。

福祉は人の気持ちを支える仕事

—地域を知り、人と人を結びつける—

社会福祉学部児童福祉学科
1984年3月卒業

う きょう あつ ひさ
右京 昌久さん

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会
福祉経営支援部 参事兼部長

PROFILE

1960年 岩手県盛岡市生まれ
特別養護老人ホーム生活指導員を経て
1987年より岩手県社会福祉協議会勤務
2011年より福祉経営支援部長



社会福祉協議会
の広報誌

○右京昌久さんのあゆみ

1984年	日本社会事業大学社会福祉学部児童福祉学科卒業 特別養護老人ホーム秀峰苑生活指導員
1987年	岩手県社会福祉協議会 地域組織課主事・主査
1991年	総務企画課主査
1993年	ボランティア活動振興センター主査
1997年	地域福祉課主査・主任主査・課長補佐
2005年	施設福祉課長
2007年	福祉経営支援課長兼福祉人材センター所長
2008年	福祉経営支援課兼障がい者就労支援振興センター
2011年	福祉経営支援部長

社会福祉法人盛岡いのちの電話理事、
岩手県福祉サービス第三者評価基準等
委員会委員、岩手県地域福祉支援計
画策定委員会委員長、全国社会福祉協議会の福祉サービス
第三者評価事業評価基準等委員会・第三者評価実践マニ
ュアル部会委員などを歴任。



2011年3月11日の東日本
大震災直後、社会福祉協議会内
に災害ボランティアセンターが設
置されました。館内は停電、断水、
寒さと絶え間なく襲う余震のな
か、県社協の職員30名余りが泊
まり込みで対応したそうです。
館内に200人近い避難者を

3・11から1年半、 復興はこれから

北上川が流れ岩手山をはるか
に望む岩手県盛岡市内に、福祉
交流施設「ふれあいランド岩手」
があります。ここはプールやアー
チエリー場、ホールや図書館も
ある大きな施設で、右京昌久さ
んの勤務する岩手県社会福祉協
議会は、この中にあります。

受け入れる一方、「支援活動をす
る人の後方支援」がセンターの業
務でした。

被災した福祉施設の支援や被
害状況を把握するために派遣され
てきた延べ3千人の介護職員や調
査支援者の活動の調整、全国から
寄せられた支援物資や福祉施設へ
の義援金2億円の分配作業や不足
物資の調達などを行いました。

職員が亡くなるなど甚大な被
害を受けた、沿岸部の陸前高田
市社会福祉協議会の業務支援も
行い、司令塔として様々な活動
に追われました。

1年半が経過した現在も、右
京さんは「被災した市街地の復
旧は10%くらいで、復興はこれか
ら。県内外からの支援も引き続
き必要」と感じています。

配慮し尽くされた努力 があつてこそ

日本社会事業大学を卒業後、
右京さんのソーシャルワーカーと
しての第一歩は、新設の特別養
護老人ホームに勤務したことだ
でした。おむつ交換をはじめ介護
業務などを通して、時には家族
よりも近い存在となつて利用者の
長い生活場面を支え、信頼関係
を築くことを学んだといいます。

「ソーシャルワーカーは多くの
人生と関わり、それらと共鳴し
ながら自分自身の人生も積み上
げていきます。一人ひとりの違
いを認め、その人の辛さや喜び
をダイレクトに受け止め、気持
ちを支える専門性の高い仕事で
す」。



多岐にわたる社会福祉協議会の仕事

生活指導員としての経験を積んだのち、右京さんは岩手県社会福祉協議会のソーシャルワーカーとして、地域の福祉活動支援に携わるようになりました。

ボランティア活動振興センター主査だった33歳の頃、全国で3回目、北海道・東北初の全国ボランティアフェスティバルが盛岡市で開催され、全体の企画を担当しました。手話劇、車いす利用者とパートナーが踊る車いすダンス、「夢灯り」という手作り灯笼を何百個も河原でとすなど、県内のボランティア活動を紹介する50近いイベントを企画。「2日間で約4万3千人が参加して盛り上がったこと、岩手のボランティア活動が定着するきっかけになったことは印象深いですね。」

地域福祉課での低所得者に生活福祉資金を貸し付ける業務では、「市町村を回り、民生委員と連携して自立支援の面接にあたりました。償還困難な人に対しては、相手を受容することなど学生時代に学んだソーシャルワーク技術が生かされたと思います。」

市町村社会福祉協議会の支援業務を担当したときは、ボランティアの方々の協力を得て、ふれ

あいサロン・送迎サービス・食事サービス・見守り活動などの開発や普及に携わりました。

また、右京さんの重要な仕事のひとつである福祉サービス第三者評価事業は、福祉サービスを客観的に評価してサービスの質の向上を図るものです。「利用者の方を直接お世話する仕事ではありませんが、評価が反映されることによって質が向上し、よりよい施設やサービスを目指すことがこの事業の役割であり、私にとつてのやりがいです。」

そのほか、障害のある方の就労支援を担当したときには、授産施設で販売するアイスコーヒーパーッケージなどの新商品の企画支援も行いました。



施設製品が売れることが自立につながります

70項目を越える業務を統括する立場

右京さんは現在、参事兼福祉経営支援部長として約50人の職員を統括する立場にあります。

「担当する仕事です」と手渡された紙には、「福祉経営支援」「障がい者就労支援振興センター」

など40を越える業務が並び、さらに「いわて障がい福祉復興支援センター」の業務が震災後に新たに加わりました。これからも引き続き復興に向けて、約1万5千人の障害者の被災状況や避難状況などの調査を改めて行い、今後の対応マニュアルづくりに取り組みます。

「たくさん業務があります。負担感はないですよ。私たち社会福祉協議会のソーシャルワーカーに必要なのは地域や福祉事業者を知ること。そして人や事業者を結びつけることです。ね」と右京さんは穏やかな笑顔で語ります。

学生時代について何うと、「児童劇団『ピッポ』の活動に夢中に取り組んだのは楽しい思い出です。卒業後も仕事上で全国に仲間がつながっていることは心強いですね。先生方も大きな助言者として卒業生を見守ってくれているのは、日本社会事業大学ならではの」と話してくれました。



「社会福祉協議会」とは？

あなたの身近にあります！

社会福祉協議会は各都道府県、各市区町村に設置されている民間団体で全国社会福祉協議会はその中央組織です。今回登場いただいた黒沢さんは市の、右京さんは県の社会福祉協議会に勤務しています。

Q 「社会福祉協議会」とは何をするところですか？

A 地域福祉を推進する機関として、社会福祉法に規定された組織で、様々な福祉サービスを提供するほか、地域住民が主体となつて行う福祉活動を支援しています。よく行政機関と間違われますが民間団体であり、福祉事務所とは異なります。これは行政による福祉サービスには限界があり、制度の狭間のニーズに応じていく組織が必要なこと、また、行政だけに頼らず地域住民と一緒に福祉のまちづくりを進めていくためであり、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会を目指しています。

Q どのような支援をするのですか？

A 社会福祉協議会の事業は地域によって様々ですが、共通の事業もあります。

Q 社会福祉協議会に就職するにはどうすればいいですか？

A 社会福祉協議会ごとに職員採用をしています。福祉の専門的な知識・小論文・面接に加えて、一般教養の勉強もしておくといでしょう。

- 低所得者や障害のある方、高齢の方の世帯への「生活福祉資金」の貸付により、在宅福祉と社会参加の促進をはかります。
- 認知症や知的障害のある方など判断能力の不十分な方には「日常生活自立支援事業」として金銭管理などを行います。
- ボランティアセンターを設置し、住民のボランティア活動を支援したり、「サロン活動」として地域住民が集う場づくりを支援しています。
- 小中高校における福祉教育にも協力しています。
- 東日本大震災では、被災地の社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを設置し、全国各地の社会福祉協議会から職員が応援スタッフとして駆けつけました。